

2018年3月10日

## ニホンジカによる日本の植生への影響 2018-2019 シカと植生に関するアンケート調査ご協力をお願い

近年、シカによる日本の自然生態系に対する影響は大きな脅威となっています。2009年5月～2011年1月（回答期間）に植生学会企画委員会が中心となり、全国アンケート調査が実施されました。その調査の目的の一つは「植生へのシカ影響についての全国的な実態把握」であり、つぎに「地域ごとのシカ影響実態のデータベース化」でした。前者は、全国各地における植生・植物群落へのシカ影響の程度や広がり、その具体的内容などの実態を把握することであり、その結果は影響度マップなど一般社会にも分かりやすい形で公表しました（添付PDF参照）。全国的な実態把握と公表は、シカによる植生への影響を日本の自然全体への脅威として社会が正しく認識するために重要です。

さらに、「地域ごとのシカ影響実態のデータベース化」によって行政や民間団体が、実質的な植生管理や野生動物管理を実行する際の基礎資料になり得たのではないかと考えています。

前回のアンケート調査からおおよそ9年経過しましたが、その間にも、シカの分布域が拡大し（環境省, 2016）、自然へのシカによるマイナスの影響は今なお続いています。そこで、2018年から2019年の2年間にわたって同様のアンケート調査を実施し、おおよそ10年経過したモニタリング調査を企画しました（第1期調査締め切り：2018年7月31日。第2期調査締め切り：2019年7月31日）。今回の調査は、前回の質問項目に加えて、シカ柵（植生保護柵）による植生管理およびシカの実態調査も含んでいます。また被害対策や保全活動には、行政、民間団体、研究者および個人と、多様な関係者がかかわっていることから、このことについてもアンケート調査を実施し、地域の自然環境の保全につなげていきたいと考えています。

つきましては、添付アンケート調査にぜひともご協力いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

◇本調査はプロ・ナトゥーラ・ファンドの助成を受けて実施しています。

シカと植生の調査プロジェクト  
前迫ゆり（植生学会企画委員長）

### シカと植生の調査プロジェクト 世話人

井田秀行（信州大学教育学部）

川西基博（鹿児島大学教育学部）

幸田良介（大阪府立環境農林水産総合研究所）<sup>2)</sup>

津田 智（岐阜大学域圏科学研究センター）<sup>3)</sup>

永松 大（鳥取大学農学部）

西脇亜也（宮崎大学農学部）

比嘉基紀（高知大学農学部）<sup>4)</sup>

富士田裕子（北大フィールド科学センター植物園）

前迫ゆり（大阪産業大学・院・人間環境学研究科）<sup>1)</sup>

松村俊和（甲南女子大学人間科学部）<sup>5)</sup>

吉川正人（東京農工大学農学部）

若松伸彦（東京農業大学農学部）

1) プロジェクト代表, 2) プロジェクト副代表, 3) 会計担当, 4) 庶務担当, 5) 情報担当

(五十音順)

主催：植生学会企画委員会

協賛：(公財) 大阪みどりのトラスト協会, (公社) 大阪自然環境保全協会, 関西自然保護機構

